

国会前「防衛相辞めろ」響く

「戦闘」隠し詭弁だ

自衛隊が派遣されている南スーダン首都での戦闘を、憲法9条に抵触するから「衝突」と言い換えた稲田防衛相の辞任を求め、南スーダンからの自衛隊の撤退を求める国会前緊急行動が14日行われ、約400人が参加しました。

総がかり緊急行動

主催した総がかり行動実行委員会共同代表の高田健さんは「稲田



「稲田防衛相は辞任せよ」「南スーダンから自衛隊を即時撤退させよ」と訴える緊急行動に集まった人々。14日、衆議院の議員会館前

防衛相はただちに辞任すべきだ」と訴えました。

「秘密保護法」廃止へ！実行委員会の角田富夫さん、群馬の宗教者、小野文珠（ぶなごう）さん、「女の平和」実行委員会の桜井晴子さんが連帯あいさつ。

角田さんは「南スーダン情勢について『戦闘』の言葉を隠し、戦争する国づくりを推進してきた安倍政権、稲田大臣の責任は重い」と述べました。

横浜市から参加した鈴木法子さん（48）はいます。「自衛隊を南スーダンPKOに派遣したことは間違いないことが明らかになったと思います。自衛隊員の血が流れないうちに撤退させるべきです。稲田大臣の答弁は脆弁（きへん）です。第2次安倍政権になり、秘密保護法、安保法制、今度は『共謀罪』法案提出の動き。どこに向かっているのか不安になります。だからこそ声をあげに来ました」

東京・足立区から参

加した78歳の女性は「国民学校1年生の時に終戦を迎えました。教科書を黒塗りにしたのを覚えています。2番目の姉の夫は中国で亡くなりました。そうした戦争を知っているのに、いま戦争が近づいているのを肌で感じています。この動きを止めないと」と語りました。

田村智子副委員長（参院議員、沖縄の風の糸数慶子参院議員、社民党の福島瑞穂参院議員）があいさつ。

田村氏は「稲田大臣の辞任と、大臣を擁護し続ける安倍内閣の打倒を心一つに頑張りたい」と呼びかけました。

7/15 5頁